いま動かなくちゃ

山之内真奈子さん（32）＝岐阜県高山市、主婦　憲法違反という意見や、世論も反対の人が多いのに推し進めているのを見ると、「日本に民主主義はないの？」と思ってしまいます。

インターネット上でママの会など各地の情報を知ることができて、励みになっています。

いま動かなくちゃ、言論の自由とかどんどんなくなってしまいそう。

首相はうそばかり

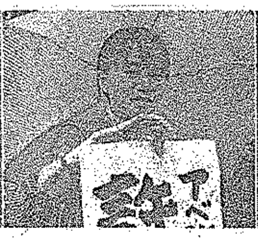
今村尚美（なおみ）さん（63）＝名古屋市、図書館職員　『女性自身』を見て、自分もきょうの10万人の一人になりたいと思ってきました。

子どものころから父が戦争の悲惨さを話していました。安倍さんの言ってることはうそばかりです。

法案がだされてからは毎月９のつく日にチラシを配っています。あしたの朝もチラシをまくつもりです。

戦争止めたいだけ

蟻塚亮二さん（68）＝福島県相馬市、精神科医　沖縄で仕事をしていたときに、戦後60年以上たってから発症した沖縄戦由来のＰＴＳＤ（心的外傷後ストレス障害）をみつけました。沖縄戦を体験した方々にとっては、戦争は終わっていないのです。沖縄・辺野古では、米軍の新基地建設に市民が反対しています。きょう、参加することで戦争を止めたい。それだけです。



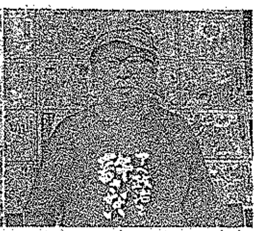
何かしたいと思い

伊藤真世さん（37）＝東京都渋谷区、派遣社員　新聞で学生たちの行動や戦争体験者の記事を見たり、行動している友人の話を聞いたりして、「じっとしていられない、自分も何かできることがないか」と思っていました。駅前でビラを受け取り、行動に参加しました。すばらしい憲法９条を守りたい。できることをやって、大きなうねりをつくり廃案にしていきたいです。

PROTECT
OUR
ARTICLE

政府は本当に怖い

黒田野香（やか）さん（37）＝ルーマニアから一時帰国中　ルーマニアから日本の国会の動きをニュースで見て、戦争に向かうのではと危機感を持っていたので、一時帰国した折には行動しようと決めていました。国民の意向とは反対に、違憲であっても政府がなし崩し的に進めてしまうのは本当に怖い。憲法を守り、何があっても外交で解決することが政治家のやるべきことです。



戦争体験者として

鹿子木徹（かのこぎ・とおる）さん（75）＝神奈川県茅ケ崎市、茅ケ崎革新懇代表世話人・事務局長　終戦の時、私は６歳でした。父親は兵士として戦死し、戦争を強く憎んだ。戦争体験者として法案に反対です。

地元では毎月９のつく日にはスタンディング行動をしています。基本はいつも１時間ほどの行動ですが最近は２時間に増やしました。来月５日には地元で大集会もやります。

政権よ　これが民意だ

平和な日本　残したい

娘、孫と共に3世代で参加

東京都八王子市の青木栄信さん（78）、千鶴（ちづ）さん（76）夫妻は、娘（48）と高1、小5の孫の3世代で参加しました。

8歳の時に旧満州（中国東北部）で終戦を迎えた栄信さんは、日本に引き揚げる途中で妹と弟を相次いで亡くし、「二度と戦争はしたくない」と思い続けてきたといいます。「栄養失調で息を引き取る弟を腕の中に抱きながら、母は『自分が悪かった』と泣いていました。子どもやお年寄り、障害者、弱い人たちが犠牲になるのが戦争です」と栄信さん。千鶴さんは兄を戦争で亡くしました。「戻ってきた傷病兵も手足を失くし、子ども心に見ていて痛々しかった。戦争への道を許してはいけない」と語気を強めます。

栄信さんと千鶴さんから戦争体験を聞いて育ったという娘は「子どもたちに平和な日本を残さなくては。若い人たちが貧困や就職難で自衛隊に入らざるをえない状況にしてはいけない」。高1の孫も「人がたくさん亡くなる戦争はしたくないし、自分も行きたくない。安倍首相に『戦争しない方がいいよ』って言いたい」と語りました。

戦争反対
団結
HOPE

高1の孫を囲む青木栄信さん、千鶴さん夫妻

高速SAでアピール

渋滞で間に合わなくても

東京都内の民間保育園で園長を務める布川照子さん（64）は30日、園長仲間9人と「アベ政治を許さない」ポスターを掲げ、長野県と埼玉県の高速道路のサービスエリア（SA）3カ所でスタンディングしました。

仲間と長野県へ行った帰りに「国会10万人行動」に参加する予定でした。しかし、道路が渋滞し間に合いそうにありませんでした。「緊急スタンディング」を思いついた布川さんたちはコンビニへ向かい、ポスターを拡大コピーしました。

約10分間ずつ立ち、戦争法案反対をアピール。手を振っていく人や、写真を撮る人などがいたといいます。

布川さんは「仲間からもやってよかったという声があった。子どもをあずかる仕事をしている身として、この法案は絶対に通してはいけないと思います」と力を込めました。

ポスターを掲げる布川さん（左から2人目）ら＝30日、埼玉県の高速サービスエリア（布川さん提供）

愛と平和 歌で伝える

国会前　中高生ら300人が披露

「国会10万人行動」に先立ち、国会前で愛と平和、自由を願う歌声をひびかせたのは、埼玉県飯能市の私立自由の森学園中学高校の有志の生徒たち300人です。

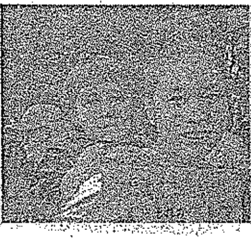
中高生12人が11日にフェイスブックを立ち上げてよびかけ、この日は在校生100人、卒業生と保護者200人が集合。

実行委員のひとり宮城愛理さん（高校3年）は「戦争への境界線を踏み越えてはいけない。あきらめず、愛するため守るため言葉をつなげていきたい」とスピーチ。大きな拍手をうけました。

ミュージカル「レ・ミゼラブル」の挿入歌「民衆の歌が聞こえるか」や「ヒロシマの有る国で」などを歌唱しました。

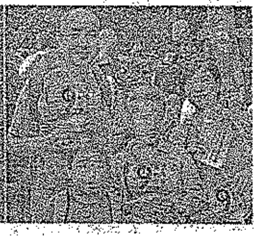
昨年、生徒が創作した創立30周年記念歌「世界がいつか愛で満たされますように」も披露。作曲した平山遥さん（高校3年）は、「短期間にたくさんの人が応えてくれた。みんな同じ思いだから。うれしい」と話しました。

コーラスする自由の森学園有志の生徒たち＝30日、国会正門前



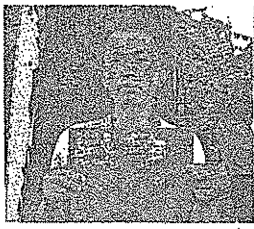
子らに平和残そう

山内真理さん（32）＝横浜市、自営業　戦争につながることに賛成することはできません。未来の子どもたちに、戦争をさせる世界を残してはいけない。戦争は、国同士が、大企業の金もうけのために行うもので、犠牲になるのは国民、子ども、自衛隊員です。安倍首相は、「国民の理解がすすんでいない」なんていいますが、理解することは、一生ありません。



危険性を伝えたい

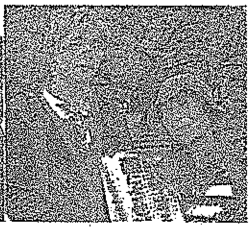
齊藤維（ゆい）さん（42）＝右端＝埼玉県小鹿野町　無所属の町議です。何か自分でできることをと行動してきました。8月の臨時議会で、共産党の議員さんが中心になって提出した安保法案の廃案を求める意見書が採択されました。10歳、6歳、そしておなかの中にいる子も含め、子どもたちを絶対に戦争に行かせたくない。地元では、廃案にするために多くの人に危険性を伝えたい。



地域から声広げる

白石大輔さん（33）＝千葉市　千葉土建職員　安倍首相のやり方はファシズム的です。立憲主義の面からもなんとしても廃案にしたい。

建設や医療は戦争に真っ先に駆り出されてしまう。自分も、子どもも、職場のだれも戦争に行かせたくない。2日と9日には房総半島からアベ暴走を止めようと宣伝行動をします。地域から草の根で広げて、多数の声にしたい。

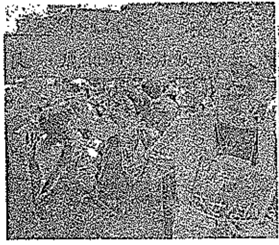


運動続けて廃案に

小笠恵子さん（67）＝山梨県笛吹市（右）、森田智瑠さん（18）＝東京都、大学1年　孫と参加です。誰も戦争に行かせたくありません。運動を続けて廃案にするしかない。わが家も「アベ政治を許さない」ポスターを外に張りだします。（恵子さん）

憲法9条があるのに海外の戦争に参加するのはおかしいと思う。若い人が自分たちのこととして声を上げていて良いと思う。（智瑠さん）

8/31 東京



憲法９条守りたい

宮田茂樹さん（74）＝奈良市、年金生活者　奈良市登美ケ丘九条の会のメンバーと一緒に参加しました。地元でも集会があるけど、全国の熱気に触れ、エネルギーをもらいたいと駆けつけました。戦争の時は４歳で、大阪で空襲を体験しました。憲法９条を守りたい、いてもたってもいられない思いです。

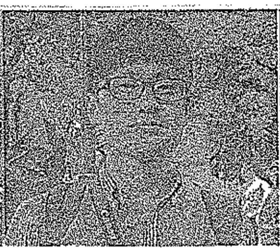
最近は若い人がビラをよく受け取ってくれて、うれしいです。

9条壊すな
戦争させない

安倍政権はやばい

曽根愛佳さん（25）＝左＝、大貫由紀子さん（50）＝いずれも神奈川県座間市、ダンス講師　安倍政権の動きは「これはやばい」と体で感じる。そういう皮膚感覚をみんなもっと大事にしてほしい。（曽根さん）

行動の10万分の１になりにきました。ダンススタジオの教え子の講師や、生徒たちに声をかけてみんなで参加しています。生徒たちには正しい情報を伝えたい。（大貫さん）



みんなハッピーに

樋山智和（ひやま・ともかず）さん（29）＝山梨県、医学生　私が願うのは、自分がハッピーで、地域の住民のみんなもハッピーでありたいということです。いろんなボランティアを体験してきて、いま医者をめざしています。この行動に参加するといったら、友人にはビックリされましたが、この様子を写真に撮り、インターネットにもアップして、アピールしていきます。

子らの将来のため

遠藤大河さん（26）＝東京都多摩市　専門学校１年生　保育士を目指して専門学校で学びながら、保育士補助としてパートで働いています。その保育園の組合の方たちと一緒に、初めて行動に参加しました。戦争法案が通って、戦争になれば被害を受けるのは小さい子どもたちです。子どもたちの将来のために、少ない力ですが、働きかけていけたらと思っています。

武力で平和違和感

相原海（あいばら・かい）さん（35）＝神奈川県南足柄市、農業　10万人のデモっていうのを体験しておきたい気持ちもあって参加しました。集団的自衛権がどうこうより、軍事力で平和を守るという考えに違和感があります。横暴な意見に、ちょっと待ってよっていえる方がいいし、実際にいえるこの国はいいなとデモに参加して思いました。この盛り上がりがどう広がるか見ていきたい。

戦争しない未来を

参加よびかけ後、集結

憲法共同センター〝歯止めない法案〟

全労連や全日本民医連、新日本婦人の会などでつくる「憲法共同センター」は30日、戦争法案の廃案を求める「国会10万人行動」に向けて都内５カ所で事前宣伝を行ったあと、国会横の国会図書館付近に集結しました。

有楽町マリオン前で宣伝カーから訴えた全労連の高橋信一副議長は、「戦争法案は、核兵器の輸送も法律上の歯止めがない、とんでもない法案だ。安倍首相が具体例にあげていたホルムズ海峡の機雷封鎖もイラン自身が否定して、根拠がなくなっている」と強調。国会周辺への参加を呼びかけました。

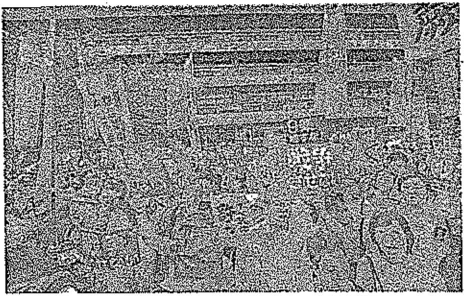
全国各地からの参加者も「全国で声をあげ、安倍政権を立ち往生させよう」（福岡）、「弁護士会と共同で取り組んでいる」（岡山）、「民主主義破壊の独裁は打倒しよう」（神奈川）と次々にアピールしました。

JR新橋駅前では、自治労連や国公労連、愛知県など東海地方の参加者が宣伝。国会周辺をめざして宇都宮市から来た男性が「一緒に頑張りましょう」と握手していきました。

国会図書館前には、あふれるほどの参加者が集まり、声を合わせて「戦争する国絶対反対」「安倍政権はただちに退陣」とコールしました。

安倍やめろ
集団的自衛権NO

「国会10万人行動」への参加を呼びかける憲法共同センターの人たち＝30日、東京都内

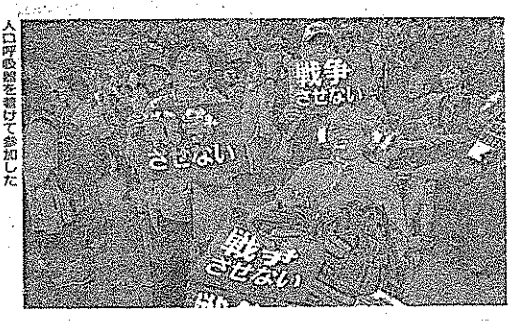


「国会10万人行動」でコールする憲法共同センターの人たち＝30日、東京・国会図書館前

難病をおして参加

「平和でなければ生きられない」

佐々木公一さん(68)＝東京都府中市


戦争させない
させない
戦争させない

人工呼吸器を着けて参加した佐々木公一さん＝30日、国会前

難病の筋萎縮性側索硬化症（ALS）を発症して19年、人工呼吸器を着けて16年の佐々木公一さん（68）＝東京都府中市＝は、車いすに乗り、妻やヘルパーらと国会正門前に参加。文字盤を目で追いながら、話しました。

「わくわくしています。革命記念日になるかもしれません」

佐々木さんは、ナチスドイツがユダヤ人虐殺の前に自国の障害者20万人を殺した事実を知り、驚きました。

「戦争は価値観を統一します。戦争遂行にすべてが優先され、現場では固有名詞のない上官の命令がすべてを支配します。役に立たない者は邪魔にされ、あるときは殺される」と佐々木さん。「私たちは、平和でなければ生きられないと痛感します」

現在や将来に多大な影響を与える戦争法案に意見を言えないかと思案し、自宅でヘルパーに、安保関連法案特別委員会のメンバーに電話とファクスを依頼しました。これまで３巡終わりました。「廃案までがんばります」

東京・大阪

「赤旗」特別号外を配布

「おっ早い」と話題呼ぶ

国会議事堂前や霞が関周辺では、日本共産党本部の勤務員や赤旗記者らが刷り上がったばかりの「しんぶん赤旗」特別号外を配布しました。カランカランとベルの音とともに「本日の『大行動』を報道しています」と声をかけると参加者が「早いね。共産党」などと言って次々と手を差し出しました。時折雨が強く降るなか、30分で２万5000部がなくなりました。

東京都杉並区に住む大学生、吉田修司さん（23）は、号外を四つ折りにしてかばんに入れました。「大切にします。いつか家族ができたとき、『パパは戦争法案に反対したんだよ』という記念です」

「公明党支持者も怒っている。元創価学会員」と書いたポスターを持った千葉県船橋市の男性（83）。「安倍暴走を止めるどころか、『平和』『福祉』の看板を投げ捨てても政権にしがみつく。地域でもどんどんそっぽを向かれている」と話し、「知人に」と３枚の号外を持ち帰りました。

◇

大阪市北区の扇町公園で開かれた「安倍政治を許さない　戦争法案を廃案に　8・30おおさか大集会」では、「しんぶん赤旗」特別号外１万部が配られ、「おっ、早い」「国会周辺もよく集まっている」と話題になりました。同志社大学に通う女子学生（19）は「東京でもたくさんの人が声を上げている。全国各地で声を上げて絶対に廃案にしたい」と話しました。

「赤旗」特別号外を受け取り、歓声をあげてのぞき込む若者たち＝30日、東京・国会周辺

8/31 京経